





- 3月にプロボクシングの現役を引退しました。それ以前の空手、キックボクシングを含めた長い格闘技人生を振り返って、いかがですか?

「15歳の時からずっと格闘技をやってきましたので、"やり切ったな" という感じは、すごくあります。 "自分の人生と言えば格闘技" という感じでしたね」

一その始まりと言える、空手を始めたきっかけは?

「自分に、自信や、得意なことも特になかったんです。"何か好きなことを頑張ったら、自分に自信が持てるのではないか"と思って、格闘技を始めました。K-1が好きで、テレビ見て、当時活躍していたアンディ・フグ選手に憧れていたので、"あんな風になりたい"と思っていました」

—そこから どんどん はまっていったわけですね。

「そうですね。勝てないと悔しいので、勝って、もっと上を目指すことしか考えていなかったです。結果が出たら嬉しいし、"さらにもっと上を"と思っていました」

一空手からキックボクシングに転向し、数々のタイトルも獲得しました。その後のボクシング転向は、 膝のけがが原因でしたね。

「"キックボクシングが、もう出来ないかもしれない"というけがでした。じゃあ、そこですっきり辞められるかと言ったら、気持ちとしては、"まだやり残している"と思ったので。"足を攻撃されることがないボクシングだったら、けがを言い訳にせず、競技に挑めるな"と思ったので、ボクシングの道に進みました」

一戸惑いはなかったですか?

「蹴りが得意で、パンチはどちらかというと苦手でした。その苦手な分野で勝負しないといけない難しさが最初ありました。日本チャンピオンになる前にトレーナーが代わり、"空手の時からの得意だったところを生かした方が良い"と指導され、結果が出ました。それまでは、"前に前に攻め、距離を詰めていく、というような戦い方をするように"という指導でしたが、蹴りがあり、離れた距離で戦うキックボクシングのスタイルにチェンジしたのもあって動きやすくなりました。それが通用して、最後に自分のボクシングスタイルみたいなものが確立出来たと思います」

一手ごたえを感じていた中での引退の決断というのは?

「"ボクシングの世界チャンピオンになってから引退する"と、ずっと思っていたんですけど、膝のけがを抱え、日本チャンピオンになった後ぐらいから悪化してきた、ということがありました。思うように走り込みが出来なくなるなど、"もうそろそろ限界かな"と。"令和4年で引退しよう"と思っていたところ世界戦の話をいただき、"世界戦までは頑張ろう"、"世界戦でやり切ろう"と…」

一最後の試合となった世界戦では判定負けでした。もし勝っていたら…。

「それでも引退はするつもりでした。どちらにしても"もうこれ以上のパフォーマンスは出せない"と思っていましたので。日本チャンピオンになった後の防衛戦も "結構、膝が危ないな"と思いながらやり、"それで終わった方がいいのかな"とまで思ったんですけど、やっぱり世界を目指したかった。体の限界までやり切ったという。"成し遂げることは出来なかったけど、やり遂げることは出来たかな"と、自分では思っています」











ーふるさと・合志市の思い出はいかがですか?

「子どもの頃、図書館(西合志図書館)によく行っていました。広くて、本もいっぱいあって、よく借りに行って本を読んでいたという思い出があります。ひまわり公園での祭りや、ママさんバレーをやっていた母について市総合センター『ヴィーブル』に行った記憶もあります。子どもの頃から活発だったと思います。転んでけがをしたり、木に登ったり…。結構、お転婆だったと思います(笑)」

一ふるさと大使の話があった時はどう思いましたか?

「すごく光栄なことだなと思って…。嬉しかったです。当時は大阪にいましたが、 ふるさと大使になったことで、帰省する頻度が増えたような気がします。その後 の熊本地震の時も大阪にいて、心配しました。何か出来ることはないかと考え、 試合の時に募金を呼びかけたり、ファイトマネーの寄附をしたりしました。 ボランティアで、一度復旧作業のお手伝いもしました。 "遠くにいるけど、出来ることを やりたい" という思いでした」





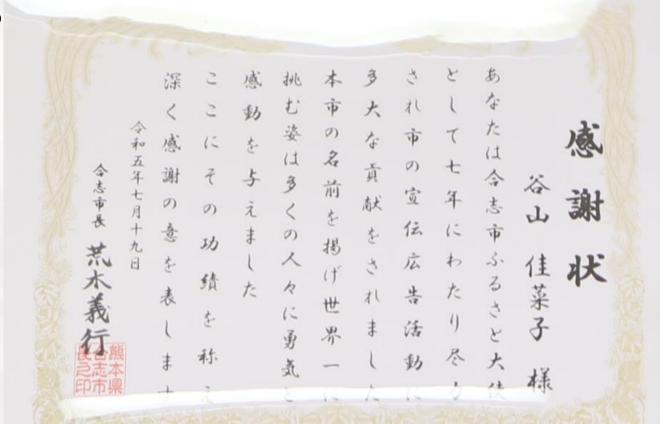
一ふるさと大使を退任し、合志市とのこれからの関わりはいかがですか?

「"何かしたいな"と思っています。もうメディアに出ることも少なくなりますが、"何か出来ることがあれば"と思っています」











「いいですね(笑)。ありだと思います。空手、キックボクシング、ボクシングと、 多くの経験を伝えられたら…。その舞台として、"合志市にジムを開けるように なったらいいな"と思います」

一長かった格闘技生活。改めて、満足感はありますか?

「やると決めたことをやり切ったので、そういう意味での満足感はありますね。そして、自分の夢を叶えるために、周りの方がすごく支えてくださったり、様々な出会いがあったり。人の温かさを感じながら、濃厚な人生を過ごせて、すごく良い人生だな、と思っています。合志市の皆さんがずっと応援してくれているということも嬉しくて、苦しい時も頑張ることが出来たと、感謝しています」





NISO ☆